



平成 23 年 12 月 6 日
編集：区議会だより編集委員会
発行：千代田区議会
〒 102-8688 千代田区九段南 1-2-1
☎ 3264-2111 内線 3315
ファクシミリ 3288-5920

ホームページアドレス
<http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>
メールアドレス
kugikai@city.chiyoda.lg.jp

※この区議会だよりは、区議会ホームページでもご覧になれます。
区議会ホームページでは、「区議会日程」や「キッズページ」などを掲載しています。また、区議会の最新情報をお届けする「メールマガジン」も発行していますので、どうぞご利用ください。

No.207



<QRコード>

第 3 回 定 例 区 議 会



靖国神社付近

デジタル
写真館

区内の風景写真などを募集中

「平成22年度千代田区各会計歳入歳出決算の認定について」は継続審査へ！

「『(仮称)千代田区議会議員政治倫理条例』
に関する決議」を全会一致で可決！

「国家公務員宿舎の削減に関して関係地方自治体
との協議を求める意見書」を提出



お茶の水橋から見た聖橋

主な内容

- 代表質問……………2～3面
- 一般質問……………4～5面
- 定例区議会活動報告など……………5～9面
- 議案の審議結果など……………10面

提案された議案など

- ◆区長提出案件
 - ・ 条例……………3件
 - ・ 予算、決算……………2件
 - ・ 契約、報告……………9件
- ◆委員会提出議案
 - ・ 意見書……………1件
- ◆議員提出議案
 - ・ 決議……………2件

※審査内容の要旨や議決の詳細は本文に掲載しています。

21日の継続会では会期を1日延長しました。
最終日の25日は、まず、委員会の審査が終了した6議案を可決、「平成22年度千代田区各会計歳入歳出決算の認定について」を継続審査としました。次に、委員会提出議案「国家公務員宿舎の削減に関して関係地方自治体との協議を求める意見書」を可決し、第3回定例区議会は閉会しました。

10月4日と5日の継続会では、6会派が代表質問を、8名の議員が一般質問を行いました。
次に、議員提出議案「『(仮称)千代田区議会議員政治倫理条例』に関する決議」を可決しました。続いて、区長から提案された「千代田区特別区税条例等の一部を改正する条例」など5議案は、担当する常任委員会へ、また、決算の認定と補正予算は「予算・決算特別委員会」を設置し、審査を付託しました。その他、7件の報告を受けました。

10月25日までの29日間の会期で開催しました。
初日の27日は、区長の議会招集あいさつの後、議員提出議案「うさみ正記議員に対する辞職勧告決議」を可決しました。

第3回定例区議会

平成23年第3回定例区議会は、9月27日から

(平成23年第3回定例区議会)

代表質問

(要旨)

自由民主党議員団

桜井 ただし

大山副区長の解職について

問 大山副区長の解職について、議会に全く説明がない。その理由は何か。また、いつまでこのような事態を続けるのか。区政運営の方向性について、同じ土俵の上で進めるのが難しいという判断で今回の人事面の対応となった。空席は、当面は庁内の状況を見極めながら対応していく。

介護保険事業計画について

問 今年度改定の第5期介護保険事業計画において重点的に取り組むべき課題は何か。また、保険料について、2割以上の増加となる見込みだが、上昇の抑制策は検討しているのか。見解を伺う。

答 以下の課題を検討している①高齢者の在宅医療と介護の連携の推進②認知症ケア事業の推進③介護保険外的生活支援サービス④高齢者にふさわしい住まいの整備⑤高齢者施設の整備。また、既に実施の紙おむつなどの上乘せ・横出しサービスの一般施策と合わせ介護保険運営基金の一部取り崩しなどにより、保険料の上昇抑制を図っていく。

新庁舎4年の評価と今後の対応について

問 新庁舎オープンから4年が経過するが、改善点や今後の区役所庁舎のあり方について、国との合築による建物全体の管理問題を含め、今後の対応を伺う。

答 設備改善は一定の制約はあるが、国とSPC（特別目的会社）と密に協議を行い、皆様が利用しやすい環境づくりに向け改善していく。

千代田保健所の1年を経過した問題点と今後のあり方について

問 以下4点伺う①休日診療所での感染予防対策②インフルエンザ流行期に受診者が増えた場合の対応③医師会などとの協議の場は定期的に設けているのか④歯とお口の相談室の普及啓発について。

答 ①つい立により患者間を仕切り消毒液を常備②マスクの整備の他、3階待合室の開放も検討③必要に応じて休日診療の課題を協議する場を設置したい④歯科医師会が合同で年2回の区民公開講座を開催している。

新しい千代田

高澤 秀行

外部からの事務事業評価について

問 ①議会との関係性や、本制度の位置付けとは②決算審査にあたって、監査意見書と外部評価が異なる場合、議会はどう受け止め、執行機関はどう対応するのか。また、議会・監査意見書・外部評価それぞれの考え方が異なる場合、予算にどう反映させるのか③外部評価の対象である10項目の選定方法とは④「区民参加会議」の目的と成果は。

答 ①評価の客観性などを高めることが目的。評価結果は議会審議でも有効活用できる②大きく矛盾することはないと考えるが、長の権限の範囲内で判断していく③区民世論調査の「区民関心の高い分野」の事業から、外部評価委員会が選定④幅広い職業や年齢層の参加を得たことは、「共生社会」実現への新たな一歩であると認識している。

福島第一原子力発電所事故に伴う放射線について

問 ①子どもたちの将来を見据えた対策とは。また、子ども健康診断に放射線関連疾患に対する問診などを加えてはどうか②過剰摂取には配慮しつつ、給食にヨウ素を多く含む食材を一定期間使用してはどうか③保護者会などで、「放射線に関する健康への影響の正しい理解」などを啓発してはどうか④子ども利用率が高い区有施設の除染計画を策定してはどうか。

答 ①定期的な放射線量測定その他、必要な情報を提供していく。健康診断については来年度に向けて検討していく②学校給食の標準摂取基準に基づき実施していく③保健所などと協力し、啓発していく④現時点で策定の予定はないが、放射線量の状況を踏まえ、適宜適切に対応していく。

区民の健康増進について

問 ①RSウイルス感染症への対策とは②「歯科口腔保健条例」を制定するとともに、口腔保健支援センターを設置すべきでは。

答 ①予防策をホームページなどにより、情報提供していく②条例の制定は、先駆的に歯科健診などに取り組んできたという認識の下、検討していく。支援センター機能は、保健所施設の活用などを視野に入れ検討していく。

日本共産党区議団

木村 正明

防災対策の位置付けについて

問 ①建築物の耐震化を支援する仕組みを再構築すべきでは②マンション管理組合などにおける防災対策への取り組みを支援すべきでは③区内の災害危険エリアの安全対策とは④区防災課の抜本的強化を図るべきでは。

答 ①今後研究していく②「防災対策の手引き」の発行などにより支援している③防災情報の迅速な収集・提供など④全庁を挙げて、防災対策の強化に向け検討している。

再生可能エネルギーの積極的導入とエコなまちづくりについて

問 ①国民全体の98%が原発廃止を求めている。区の見解は②東日本大震災以後のエネルギー施策について、新規事業や見直した事業とは③LED照明設置助成制度の対象範囲を見直すべきでは④東京都は旧赤坂プリンスホテルの建て替え計画を推進している。区の見解は⑤旧宮内庁宿舍跡地の緑を残すため、民間に払い下げないよう国に働きかけるとともに、同跡地の購入を東京都に働きかけてはどうか。

答 ①国が方針を示すべきである②家庭用ガスエンジン給湯器導入に対する助成率の引き上げなど③省エネ効果や経費などを勘案し判断していく④これまでの経緯を踏まえると問題があるため、東京都には意見を申し入れている⑤地区計画と連動し、地域全体で緑化を推進していく。

区政運営のあり方について

問 ①人件費の比率を定め、その達成を目的化する区政運営は、目的と手段が逆転しているのでは②指定管理者制度になじまない施設もあるのでは。また、行財政効率化の取り組みにより、官製ワーキングプアを大量に作ってしまったのでは③区職員へのメンタルヘルス対策として、区政運営を抜本的に見直すべきでは。

答 ①今日にふさわしい区民サービスは提供していると考える②費用対効果を測定し導入している。ワーキングプア問題は、国において検討すべきものと考え③区職員の健康管理には適切に取り組んでいる。その他、「今定例区議会に提案されている特別区税条例等の一部を改正する条例」について質問がありました。

(平成23年第3回定例区議会)

代表質問

(要旨)

公明党議員団

山田 ながひで

放射能対策について

問 「放射線を正しく理解するため」の講演会や勉強会を学校などで開催する予定はあるのか。また、今後も給食・食品について、放射線検査を行うのか。

答 学校での学習会なども要望を踏まえながら対応していく。また、給食などの放射線測定は区の空間放射線測定状況を監視し、データ変動の状況や保護者の意見を考慮しながら柔軟に対応していく。

がん対策について

問 ①がん予防は知識がなければ適切に対応することはできない。学習の機会を設ける必要があるのではないかと。胃がんの原因となるピロリ菌の有無の検査を、検診の一つとして行うべきである③乳がんの早期発見と検診は重要である。そこで、意識啓発にもつながり、自己触診で分かる「がんグローブ」を配布するよう提案する。

答 ①がん予防に関する出前講座の実施や健康手帳の配布などで啓発に努めている②ピロリ菌の検査の実施は、区民や関係機関と協議し、方向性を整理していく③乳がんは増加傾向にある。今後もがん検診受診率の向上には啓発活動を強化する必要があるため、ピンクリボン運動などの際に啓発物品として検討していく。

節電対策について

問 節電を前向きにとらえ、商店や商店街の活性化につながる灯りのあり方として、街の灯りを兼ねた電話ボックス型のショーウインドーの設置を検討してみているのか。

答 LEDをはじめ、さまざまな照明技術も研究されている。他の自治体の事例や商店街・沿道の方々の意見を参考にしながら検討していく。

副区長の職首について

問 大山副区長は、社会正義に反するなどの重大な行為があったから職首されたのか。

答 法令違反はなかった。自治発展、区政の大きな方向について、共通の土俵に立つことが難しくなった。

ちよだの声

小林 たかや

石川区政の10年を振り返って

問 平成23年は、石川氏が区長になって第3次長期総合計画を策定して10年が経過し目標とした年にあたる。そこで次について問う①第3次長期総合計画の結果をどのように評価しているのか②計画遂行過程でPDCAサイクルは実行され、ステップアップされたのか③何をもって、区民満足度が向上し、区民が実感できる成果が得られると判断しているのか。

答 ①施設整備面だけではなく、区民生活に直接関わるソフト対策も取り組んできた。評価は最終的には、区民の判断だと考える②計画推進過程で予算編成、組織目標管理、事務事業評価を行うスパイラルアップ型のPDCAサイクルを実施している③区民世論調査などの実施により、区民満足度の把握に努めている。

(仮称) 東松下町計画と大山副区長について

問 ①東松下町計画で、大山副区長が議会や住民説明会で約束した確認事項は引き継がれていくのか②この計画は2棟一体化で、民間棟が計画倒れになれば区営棟もなしと、説明してきたが間違いないか。その場合、訴訟費用も含め、損害賠償費用は誰が負担し、責任をとるのか。

答 ①区の事業はすべて、それぞれの所管が組織として、責任を持って進めていく②区営住宅棟の設計費用は議決を経ており、計画を着実に遂行することが責務と考える。仮に破綻した際は、原因を精査し組織として対応する。

区が行う土地の賃貸借の矛盾について

問 障害者福祉センター「えみふる」の候補地を検討する際、誰が、どこで24カ所ある区有地ではなく、高額な権利金や地代を必要とする土地を選定したのか。また、なぜ他者に貸す場合は賃料を減額しているのか。(仮称)高齢者総合サポートセンターの減額について議会への報告はあったのか。

答 「えみふる」の整備地は、アクセス性や隣地が病院であるなど利用者の実態を勘案し決定した。区有地より適切な場合は、購入や借地を検討するが、区有地を他者へ貸す際は、その土地の鑑定評価を行い金額を算出している。

ちよだの声 民主

岩佐 りょう子

総合計画など、各行政計画における議会・区民の関与について

問 地方分権改革を受けて、議会が関与する手続きの範囲は拡大してきたように思われる。本区においても、総合計画策定、基本構想などの策定段階で、公開の場である議会や議員の関与が望ましいと考えるが、それらの改革内容の変遷を問う。そして、計画策定の段階から、区民の参加を今後、どのように増やしていくのか。

答 節目、節目で、議会の意見を伺いながら計画策定や事業執行にあたっている。計画策定段階での区民参加については、関係団体や有識者などで構成する検討組織を設けるなど、区民ニーズや区民満足度の把握に努めている。

区有地を貸し付ける場合の手続きについて

問 不動産の長期賃貸借契約を締結する際、明確な借地条件や減額の基準がなく、特別な理由がある場合は、簡易な手続き方法で低い貸付料で貸すことができる。基準・指針を示した上で、要件を厳格化し、より慎重に民主的な手続き方法をとるべきではないのか。

答 区有地の活用方法は、以前よりも多様な手法がとられている。本区の所有地は財産価値が非常に大きい。従前の手続きに関する規定が実情に適合しているか、見直す必要がある。また、執行機関における意思決定過程で、客観性を担保できるチェック機能を設けるなど工夫していきたい。

情報公開について

問 区民に重要な情報が分かりやすく知らされず、知った時には、既に決定していることが多い。更に、行政計画の進行状況も分かりにくい。主権者である区民に対する情報公開として不十分である。予算策定過程や各種計画の進行状況や正確な地域の情報を、区民の参画を前提に、適時に情報公開するべきと考える。意見を問う。

答 予算書や決算書とは別に、区独自で「予算の概要」や「主要施策の成果」などを作成し、予算や決算の「見える化」に積極的に取り組んでいる。また、その進捗状況などは、ホームページに掲載している。今後も区民の参加・参画の方法やタイミミングなど改善に努めたい。

(平成23年第3回定例会区議会)

一般質問

(要旨)

自由民主党議員団 松本佳子

木造建築物に対する耐震対策について

問 ①本区では、マンションには手厚い制度が設けられているが、木造建築物に対してはどうか。他の自治体では建物全体を補強する考え方を改め、高齢者が一日を通じて一番長く過ごす居間や寝室などを重点的に補強する制度の他、寝室にシェルターを設置するなどの簡易な方法で身を守る制度がある。高齢者が安心して過ごせるための対策を含め、最も有効な補強手段とは②助成制度の対象は、65歳以上の高齢者のみ世帯などとしているが、高齢者にとって使い勝手の良い制度への見直しをすべきでは。

答 ①所有者の意向を踏まえながら改修の方針を決めるなど、きめ細かに対応している。更に、居間や寝室などを重点的に改修してほしいなどの要望に、柔軟に対応していく②ご指摘の状況を見据え、木造住宅に対する支援のあり方を含め、区民の生命・財産を守るといふ観点から、本区の耐震化施策、とりわけ住居について、総合的に見直していく。

乳幼児の教育・保育のあり方について

問 ①幼稚園と保育園のあり方について、今後の検討の方向性とは②時代と共に変化する多様なニーズに応えられる保育・教育施設を早急に整備すべきでは。

答 ①ニーズの変化を踏まえることはもとより、すべての子どもにとって良質な育成環境となることを基本に検討していく②国における「子ども・子育て新システム検討会議」の動向を十分注視しながら検討していく。

ちよだの声民主 小枝 すみ子

こども療育センターについて

問 発達が気になる子どもたちのために、相談・交流・サービスの拠点として、こども療育センターを整備すべきではないか。

答 さまざまな経緯を踏まえ児童家庭支援センターで実施してきた。「発達支援における療育事業検討会」を設置し、検討・協議

を開始した。平成24年度からの本格実施を目指し、鋭意検討していく。

災害対策について

問 災害時に機敏な動きが取れるよう区長室直轄で危機管理対策室を作つてはどうか。災害時には区長を災害対策本部長とする指示命令系統で対応している。現行の組織体制の中で迅速かつ的確に対応していく。

旧庁舎跡地計画について

問 基本協定の締結時に、都市計画道路問題で敷地が狭くなったことに驚いた。大議論の末に締結された本協定を簡単に修正することは許されない。再検討すべきではないか。

答 白紙見直しはこれまでの議論、到達点を無視することになる。今後も、建設的な議論を頂き早期の開設を目指していく。

東松下町計画について

問 区営住宅棟の高齢者向け特定有料賃貸住宅に、避難所として開放されるような社会教育施設などを導入すべきではないか。

答 区営住宅棟だけではなく、民間住宅棟も含めた全体計画の中で対応していく。



花と霞が関

新しい千代田 安岡 けんじ

千代田区における高齢者介護の現況について

問 本区では、現在、区の人口の約20%、9,400人が65歳以上である。そのうち1,900人が要介護・要支援認定者で、更にそのうち半数の方は認知症を患っている。次について問う①認知症の独居高齢者への対応はどのように

行っていくのか。特にゴミ処理の問題が深刻である。認知症要介護者の支援体制が必要ではないか②高齢者が増加する中、在宅介護による精神的ストレスを解消するために、精神科医による相談体制は不可欠と考える。対策はあるのか③今までに、本区への介護サービスの不満など苦情はどのくらいあるのか。また、ケアマネジャーやヘルパーの介護者に対する心遣いや接し方などの教育をどのように向上させていくのか④(仮称)高齢者総合サポーターセンターの存在意義は何か。

答 ①認知症高齢者については、本人との信頼関係を築き、生活環境の改善や在宅サービスなどを行っている。また、在宅ケアは、認知症デイサービスや居宅介護の訪問・泊まり事業などを実施している。更に、認知症の早期発見や診断・治療に向け検討したい②現在、保健所では、精神科医による心の相談室を行っている。ストレスや悩みが深刻化する前に相談できる体制づくりが必要と考えている③件数は、平成22年度は7件、平成23年度上半期は4件である。内容はヘルパーの対応や訪問回数への不満などである。レベルアップについては、講習会などを開催し、サービスの質の向上を図りたい④個々に合った適切なサービスを迅速にコーディネートすることである。

日本共産党区議団 飯島 和子

社会保障について

問 ①年金・医療・介護それぞれの制度において、国の役割を後退させ、自助・共助を基本とする保険主義に転換した構造改革が進められている。そこで、後居高齢者医療保険制度と国民健康保険制度について、社会保障の観点から、どう考えているのか②保険料滞納世帯は、さまざまな問題を抱えている。総合的な生活相談窓口を創設すべきでは。

答 ①医療保険制度は、国民生活の基本に関わるセーフティーネットという位置付けであると考えている。従って、国の責任において、国民を対象に給付の平等と負担の公平を図る仕組みを構築すべきである②新たな相談窓口の設置は考えていない。

子ども・子育て新システムについて

問 ①新システムは待機児童解消に役立つのか②保育所面積基準の緩和は、安全・安心な保育の願いに反する。区長の見解は。

答 ①個々の施設・設備の状況によって異なるものと考えている②区民などのニーズや地域特性を踏まえたサービスを提供していく。

放射能から子どもを守るために

問 ①被曝量は少なくすべしという立場か②ゲルマニウム半導体検出器を購入し、給食を継続して測定すべきでは③土壌除染の責任は東京電力と国に取らせるべきでは。

答 ①年間1ミリシーベルトが目標②現時点では、購入する予定はない③経費は国が負担すべきものと考えている。



新しい千代田 林 則行

バリアフリー対策について

問 ①第3次基本計画では、交通バリアフリー法の構造基準により区道の段差や勾配に配慮した道路整備を目標としている。区内には、該当する歩道がどのくらいあり、何年後に整備する計画なのか②現在、エスカレーターが未設置の駅で、下りエスカレーター設置可能な駅はどこなのか。そして、5年後までに、あと何カ所の駅にエレベーターを設置する計画なのか。

答 ①千代田区交通バリアフリー基本構想で、駅と公共施設などを結ぶ主となる道路を「特定経路」とし、区の歩道設置幅事業や段差解消事業などにより整備している。整

(平成23年第3回定例区議会)

一般質問

(要旨)

備状況は93%が整備済で、5年後には100%完了する計画である②未設置駅は3駅だが、そのうち神田駅はエレベーターを設置する予定である。今後も鉄道事業者などと連携し、バリアフリー化を推進していきたい。

国有財産の処分に対する区の対応

問 区内にある国有地売却予定の場所と面積を問う。また、防災や福祉施設整備に向けて、購入や賃借などの検討はしないのか。東京メトロ株の取得は、駅周辺の再開発事業などで有益になると考えるが、取得しないのか。

答 国有地売却予定地の詳細は把握できていない。行政需要を踏まえ、区有地より適切であると判断できる場合は、購入や借地もあり得るが、区が所有する財産の有効活用など総合的に判断したい。東京メトロ株の取得は、資産管理上のリスクなども勘案する必要がある。



日比谷公園

新しい千代田

はやお 恭一

虐待問題への包括的な取り組みの必要性について

問 ①虐待問題を横断的に捉え対応するため「虐待等防止連絡委員会」の成果と今後の課題は何か②児童虐待防止対策強化の一環として、妊娠期からの相談体制をどのように整備していくのか③定期的な人事異動を見据えた上で、虐待問題に適切に対応できる担当者の育成をどう考えているのか。

答 ①包括的な取り組みの重要性を認識しながら、スピード性を高め、問題解決への道すじを探っていく②地域関係団体や医療機関、児童相談所などとのネットワークに加え、

保健所との連携を更に強化し、地域全体で見守り体制の充実を図っていく③情報の収集、検討事例の熟知、ケース記録の整理など、OJTや専門研修などにより育成していく。

インターネット社会が青少年にもたらす問題について

問 ①インターネットを介して発生している諸問題について、どのように把握し、対応しているのか②スマートフォンを始めとした通信手段の多様化に伴う課題や対策について、どのように考えているのか。

答 ①本区では、小中学生の約半数が携帯電話を所有しているとの調査結果を踏まえ、「親子で学ぶ情報モラル授業」を全校で実施している。また、東京都教育委員会と協力し、学校非公式サイトの監視などを行っている②適切に情報手段を活用する能力を習得するよう、情報教育を推進する。

自由民主党議員団 永田 壮一

教科書採択に至る過程について

問 教科書採択にあたり、十分な議論がかわされたのか疑問である。教育委員会の中でさまざまな観点から議論したのであれば、全科目、全会一致で決まるのは不自然であり、本来ならば、各科目で賛否が分かれて当然である。どのような過程を経て、各々の教科書の内容を把握し決定に至ったのかを公表し、区民に説明する義務があるのではないか。

答 教科用図書採択事務取扱要綱を制定し、採択事務を行っている。教員による研究会や教科ごとの調査委員会、更に校長などで構成される選定委員会が設置され、調査・研究を重ね、その結果が選定委員会の答申として教育委員会に提出される。その後、各教育委員は調査を行い、学習会で検討して、全教科、全会一致で採択をした。その経過は、議事録の閲覧やホームページに掲載している。

千代田区における生活保護実態と対応について

問 本区的生活保護世帯は約580世帯で、56人に1人が受給者となっている。支給額は

およそ15億円になる。先般の年越し派遣村の失業者に対して、簡略した審査で誤って支給していないのか。生活保護の本質は生活再生と自立支援である。金銭的な援助だけではなく、就労支援の対策が必要である。見解を問う。



河合良郎

新しい千代田 河合良郎 電線類地中化について

問 ①東京電力や東京都は従来どのような支援体制を区に提供していたのか②第3次長期総合計画の「交通バリアフリー基本構想」では、平成27年度までに区道の地中化整備率を50%にする目標を掲げている。地中化整備率を上げることは急務であるが、原発事故が発生した現在、目標達成年度を緩和するのか③地中化整備率の向上に向けて、今後の方向性を伺う。

答 ①本区に対して国や東京都が事業補助や技術支援を行う一方、企業は計画化された事業に協力することになっている。地上機器などの電力設備は電線管理者の東京電力が整備負担している②国などと連携を図る必要性から、目標を大きく変えることはない③道やまちのあり方など、地域全体で方向性を議論している。地元や企業者と調整し整備財源確保などの課題も詰めながら計画化していく。

行政サービス情報の効率的な伝達方法について

問 区が多くの行政サービスを実施していることを区民があまり理解していないことは、チャンスを逃すことにつながる。助成制度などのカテゴリー分けやホームページの再構築など、区民の目線に立って効率的な伝達方法を考えることが重要である。区の見解を伺う。

答 行政サービス情報は、利用者の視点で作成し、必要な内容が必要な時に入手できることが基本である。利用者が容易に情報を取得できるよう検討していく。また、ホームページは来年度、抜本的に改善していく。

定例区議会活動報告

常任委員会

常任委員会では、区長提出案件5件を担当の委員会で審査しました。

議案の審査結果を紹介します。

企画総務委員会

「千代田区地区計画の区域内における建築物等の制限に関する条例の一部を改正する条例」は、新たに内神田一丁目地区並びに内神田二丁目地区の整備計画を定めるにあたり、建築基準法の規定に基づき建築物などの制限を定めるものです。

〈審査経過〉

質疑の中で、①地区内の敷地で容積の最高限度の指定が異なる場合に建築物を建築する際は、各々の面積による案分で容積率が決定されること②隣接する内神田三丁目地区は、神田駅及び駅周辺での地区整備のあり方を検討する懇話会で、地区計画の策定に向けたまちの将来像の検討が行われていること③敷地面積の最低限度を地区ごとに規定しているが、条例施行日時点で敷地面積が最低限度未満の場合でも、現在の敷地面積で建築は可能であること④用途制限として、住居専用面積の最低居住面積を定めていないが、ワンルームマンション指導要綱により運用すること、などが明らかになりました。

メールアドレス kugikai@city.chiyoda.lg.jp

ホームページアドレス <http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>

「麹町中学校給食調理備品の購入について」は、給食調理において使用する移動台などの備品を購入する契約を締結するため、条例の規定に基づき議会の議決を得るものです。

〈審査経過〉

質疑の中で、①今回購入する備品に対応可能な業者は区内に4社しかなく、過去の落札実績などを考慮すると、そのうち2社しか該当がなかったこと②近隣区を含めても15社しかないこと、などが明らかになりました。

「災害対策用物資(毛布)の購入について」は、毛布1万枚を購入する契約を締結するため、前記議案と同様、議会の議決を得るものです。

〈審査経過〉

質疑の中で、1万枚を購入する根拠として、現在、避難所に備蓄されている災害対策用毛布は1万3,000枚だが、必要枚数は1万8,000枚で、5,000枚不足していること、帰宅困難者用毛布も5,000枚不足し、合わせて1万枚購入すること、などが明らかになりました。

以上の議案の他、3件の陳情審査及び「外部からの事務事業評価の中間報告」、「第4次男女平等推進行動計画」、「神田警察通り沿道地域のまちづくり」などの報告がありました。

生活福祉委員会

「千代田区特別区税条例等の一部を改正する条例」は、①寄附金控除の適用対象を、5,000円を超える寄附から2,000円を超える寄附に拡大すること②上場株式などの配当所得・譲渡所得の軽減税率の特例の適用期限を、平成23年末までから平成25年末までに延長すること③罰則強化として、不申告に関する過料の額の上限を、3万円から10万円に引き上げること、などを改正するものです。

〈審査経過〉

質疑の中で、次のことなどが明らかになりました。①法人などに寄附した場合に受けられる個人住民税の寄附金控除制度においては、対象となる法人などを当該自治体が指定

することにより追加できるとされており、本区における寄附金控除対象法人などの範囲について、今後検討していくこと②不申告者への過料については、不申告の事実のみをもって直ちに罰則を適用するような運用は、これまで行っていないこと。

「千代田区災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例」は、災害弔慰金の支給を受ける遺族の範囲に、他に配偶者や子などの遺族がいないなど、一定の要件のもとに、兄弟姉妹を加えるものです。

〈審査経過〉

質疑の中で、今回の条例改正に伴う、いわゆる東日本大震災の被災による、本区での弔慰金支給はなしと想定されることが明らかになりました。

この他、当委員会に送付された陳情の審査や執行機関からの報告を受けました。



内堀通り

環境文教委員会

当委員会に送付された陳情の審査を中心に行いました。

初めに、「西神田公園の喫煙について改善の陳情」は、冒頭に執行機関から、改めて区立公園における喫煙の実態調査を行い、分煙化または禁煙化の方針を作成した上で、条例による規制と運用による対応の双方から、関係部署と検討していくとの説明がありました。なお、西神田公園については、当面の対応

として「子どもが利用している時は喫煙をご遠慮下さい」と表示した看板を設置し、喫煙者の協力を求めるよう周知していくとの報告がありました。

以上のことから、委員会としては、陳情者が求める「千代田区の公園が思いやりのある空間となることを願っています」という趣旨を採択し、執行機関に対し、西神田公園がより一層「子どもに配慮した空間」となることを求め、審査を終了しました。

次に「旧麹町保育園跡地に早期に保育所開設を求める陳情」は、審議の中で陳情内容の一部に確認を要する事項があることから、陳情者に対し内容確認を行い、改めて委員会として、判断することになりました。

最後に、「千代田区立保育園、こども園および小中学校で提供された給食等および牛乳の継続的な放射線量測定実施を求める陳情」は、執行機関から、9月21日に幼稚園、保育園、小学校の全ての給食について、放射線量の測定を実施したとの報告がありました。測定の結果、放射線量は不検出であったが、今後も継続的に測定していくとの報告がありました。以上のことから、委員会としては、今後も保護者の不安解消のため、長期継続的な測定の実施と柔軟な対応を執行機関に求め、審査を終了しました。

特別委員会

駅及び駅周辺環境整備特別委員会

初めに、当委員会に送付された「飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発事業」に於ける「歩行者の安全性」を配慮した「歩道整備」の在り方への陳情書について審査しました。担当課長から、当該再開発事業の現況や地元の沿道懇話会での議論経過などの報告を受け、当委員会では慎重に調査・研究する必要があると判断し、継続して審査することになりました。

次に、各駅及び駅周辺のまちづくりについて、担当課長から報告を受けました。飯田橋駅周辺では、文化財である石垣や見

附をできるだけ現状のまま残し、歴史的な資源を生かす西口広場整備の修正案を示したことや、まちづくり協議会の部会で「大神宮通り沿道まちづくり検討委員会」が設置され、賑わいの充実や回遊性の向上を基本に検討していくことなどが明らかになりました。

御茶ノ水駅周辺では、「淡路町二丁目西部地区再開発事業」などの進捗状況の報告の中で、戦後間もない時期から規制されていた、淡路町再開発事業周辺の一部の道路の時間規制による車両進入禁止を解除することが明らかになりました。

神田駅周辺では、地元懇話会での議論について報告があり、道路整備の具体化のために沿道関係者による協議会を設置することや、電線の地中化、上白壁橋高架下の歩道道化などの整備イメージが明らかになりました。



近江彦根藩井伊家屋敷跡

災害対策特別委員会

当委員会では、東日本大震災で発生した問題点を把握し、より実態に即した地域防災計画への改定に向けて、調査・研究を行っています。

初めに、担当課長から、震災当日における本区の行動及び発生した課題や問題点について報告がありました。また、全庁的に継続して災害対策の見直しを行っていくための組織が、新たに作られたとの報告がありました。

次に、政策経営部を始めとした本区の各組織ごとの対応や施設管理において発生した問題点などが挙げられ、問題解決のために取られた具体的な行動について、詳細な報告がありました。

メールアドレス kugikai@city.chiyoda.lg.jpホームページアドレス <http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>

これらの報告の中で、避難所や帰宅困難者対策、備蓄物資などに関する問題点が明らかになるとともに、委員からは本区の地域防災計画改定の基本方針やスケジュールが示されていないなどの指摘がありました。

委員会では、基本方針やスケジュールについて早急に明らかにしていくことを執行機関に求めるとともに、引き続き防災対策の強化に向けて調査・研究を進めていきます。



和泉橋防災船着場

〔仮称〕高齢者総合サポートセンター調査特別委員会

当委員会は、千代田区役所旧庁舎跡地への整備を予定している（仮称）高齢者総合サポートセンターと九段坂病院について、さまざまな観点から調査していく必要があることから、第2回定例区議会において設置されました。

委員会では、施設を整備するため、本区と病院の設置者である国家公務員共済組合連合会（KKR）の間で締結の準備を進めている基本協定書の内容について、7月中旬に委員会を3回開催し、集中的に議論を行いました。

その中で、特に議論されたことは、①借地料を2分の1に減額すること②定期借地権の設定に係る保証金額の考え方③九段坂病院が実施する事業の具体的内容、です。

このことについて、延べ13時間に及ぶ質疑や議論を行った結果、各項目に対する執行機関の考え方は、以下のとおりであることが明

確になりました。①借地料の減免については、個別事例ごとにその適否を判断しており、本件では九段坂病院が移転改築後に新たに実施するさまざまな取り組みは、（仮称）高齢者総合サポートセンターの機能確保と地域医療の向上に相当程度の寄与が期待できることから、適当であると判断したこと②保証金は、主として借地期間満了後の解体経費を担保する意味を持つため、施設規模や構造などを考慮した金額を賃貸借契約の中で定める予定であること③職員配置を含め、事業の具体的な内容は基本協定締結後に協議して定めるため、現段階で明らかにすることは困難であるが、新たに設置する評価委員会において、事業実施が保証される仕組みを構築すること、です。

ここまでの議論を基に、KKRとの協議期限が目前に迫っていることに鑑みて、各委員が基本協定の締結に対する考え方を表明しました。

数名の委員から、締結は時期尚早との意見が出されたものの、大方の委員が基本協定を締結すべきとの見解を示しました。

その後、本区とKKRとの間で、「（仮称）高齢者総合サポートセンターと九段坂病院の合築整備事業に関する基本協定」を8月に締結し、さまざまな議論が進められています。

本定例会において開催された委員会では、KKRとの協議内容の他、今後のスケジュールとして、以下の内容が報告されました。①施設前面の都市計画道路が事業認可される見込みとなり、約500㎡が買収されるため、建築可能延べ床面積が約2万3,100㎡に減少すること

②延べ床面積が減少した場合でも、（仮称）高齢者総合サポートセンターで必要となる機能は、ほぼ確保できる見込みであること③現在の高齢者センターは手狭なため、利用者はフロア間の移動を余儀なくされ不便であることから、新施設では1階、4階及び5階に（仮称）高齢者総合サポートセンターが配置されること、などです。

これらの報告に対して委員からは、延べ床面積が減少することであらゆる世代の区民が

憩い、集い、親しむ機能が無くなっているが、区民が非常に愛着ある土地であることから、なんらかの形でその機能を実現する必要があるという意見が出され、今後執行機関において検討していくことになりました。

事業スケジュールで、特に議論された点は、旧庁舎跡地を広場として暫定的に活用する期間が約1カ月半という短い期間であり、また、広場整備に要する経費は、最低でも1,000万円は必要であることです。

このことについては、具体的な整備内容、利用形態などとともに、費用対効果の観点からもどうすべきか、委員会の中で引き続き議論していくことにしました。



予算・決算特別委員会

「平成23年度千代田区一般会計補正予算第3号」は、①千代田区役所旧庁舎解体に関する経費の追加②建築物の耐震診断助成に関する経費の追加③特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化促進事業に関する経費の追加④常盤橋門跡石垣などの修復に関する経費の追加⑤子ども手当の減額更正に関する経費の追加⑥旧庁舎の解体工事及び（仮称）高齢者総合サポートセンター基本・実施設計に係る債務負担行為の設定、をするものです。

〔討論〕

〔反対の意見〕

旧庁舎解体及び（仮称）高齢者総合サポー

トセンターの関連予算の積み上げ根拠が明確でなく、余りに大雑把である。また、旧庁舎跡地の測量の結果、たまたま公簿面積より多い数値だったため、都市計画道路の事業化によっても計画自体が頓挫することを免れたが、委員会や相手方と話し合われてきた内容を変更せざるを得ない危うさがある中で検討された予算であることから、反対する。（岩佐）

区民の多数、多様な意思を区政に反映させるための制度が二元代表制である。委員会における区長の答弁は、訂正されたとはいえ、この制度の根幹に触れるものとして看過できない。また、子ども手当の減額補正は、子育て世代に対し半年間で1億円もの手当を減らすものであり、75%の子どもたちに影響をもたらし、子育て支援に逆行するものであることから、反対する。（木村）

〔賛成の意見〕

提案された項目は、東日本大震災を踏まえ早急に対応が求められるもの、子ども手当制度に係る法改正に伴うもの、（仮称）高齢者総合サポートセンターの整備に関するものであり、いずれも区民生活の安全・安心を支えるものである。また、サポートセンターの整備にあたり、議会に対して進捗状況や課題を適時適切に報告・相談し進めていくことが確認されたことから、賛成する。（鳥海）

全会一致で採択された請願である、旧庁舎跡地を暫定的広場として活用する件について、広場としての利用期間がわずか一カ月半であることは驚きであった。また、債務負担行為とはいえ、広場として活用するための補正予算が5,000万円とつかみの数字しか示されなかったことは残念である。平成24年度予算では、明確な積み上げ根拠を基に、広場に関する予算立てをすることを求め、賛成する。（林）

「平成22年度千代田区各会計歳入歳出決算の認定について」は、多岐にわたる分野の調査が必要ことから、企画総務、生活福祉、環境文教の3つの分科会を設置し、詳細に調査を行いました。

委員会の審議過程においては、旧練成中学

メールアドレス kugikai@city.chiyoda.lg.jp

ホームページアドレス <http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>

校の貸し付けに至る経緯、新聞社に支出した広告料、町会とマンションとの関係などについて、執行機関が明確な答弁、あるいは答弁そのものができず、遺憾な事態に陥りました。このため、委員会日程を追加し、3日間にわたり調査を行いました。その後も明解な答弁を得ることができませんでした。

このまま調査を継続しても、執行機関の答弁ができない状況に変化があるとは思えず、委員会としては、執行機関が自らこの状況を受け止め、反省し改善するには一定の時間が必要であると考えました。

このため本委員会では、決算の認定について、閉会中も継続して審査を続けることにしました。



本会議における討論（要旨）

今定例区議会では、「うさみ正記議員に対する辞職勧告決議」の議案を採決するにあたり、討論がありました。その要旨をご紹介します。

【反対の意見】

よりどころとする政治倫理条例を制定していない本区議会において、何を基準にして辞職勧告決議としたのか。恣意性が感じられ、適正な手順・手続きを踏んでいるとは到底思えないことから、反対する。

（寺沢）

今回の新聞報道は、行き過ぎた、正確性を欠いた表現であると認識している。この報道に流されて可決することは人権の無視であ

る。他者を巻き込んだ大人たちの政争は、厳に慎むべきであることから、反対する。（小枝）
自らの責任を重く受け止めて謝罪すべきだが、議員の身分は議員自ら判断するのが議会人として本来あるべき姿であると考えることから、反対する。その際、有権者の負託に応えられるかが重要な判断基準である。（河合）

【賛成の意見】

未成年者との深夜の外出は非常識で、意義ある平和事業に悪影響を及ぼし、区民の信頼を裏切るものでもあった。この間、問題となつた区議会の信頼回復に向け、制度づくりに直ちに取り組むことを付け加え賛成する。（飯島）

うさみ議員から自由民主党議員団あてに届けられた文書には、自分は悪くないと思われる記述や開き直りとも思える記述があり、事実に対して真に申し訳なかったと反省する姿勢が見られないことから、賛成する。（桜井）

今回の行動は議員として決してあつてはならないものであり、倫理上も許されるものではない。議員として、きちんとけじめをつけるのは当然であることから、賛成する。（山田）

今回の行動は、うさみ議員にいかなる考えがあつたとしても、子どもを守る立場にある者として、また、区議会議員の立場にある者としては、社会通念上、到底許されるものではないことから、賛成する。（戸張）

今定例区議会で可決した決議・意見書（全文）

うさみ正記議員に対する辞職勧告決議（9/27可決）

うさみ正記議員は、本年7月24日から27日の間、区の国際平和事業である平和使節団の一員として、区議会を代表して沖縄に派遣されたが、派遣中の深夜に、同団員として参加していた女子高校生3名を宿泊先のホテルから酒類を提供する飲食店へ連れ出し、翌午前1時頃にホテルに戻ったという事実が判明した。

これらの行為は社会通念上到底許されるものではなく、また、深夜に保護者の承諾なしに青少年を連れ出すことを禁止している「沖

縄県青少年保護育成条例」に抵触する恐れもある。

区議会議員は、区民の信託を受け区民の代表として、議員活動を通じて区民福祉の向上に努める職責を有している。しかしながら、これらの行為は、区民との信頼関係の上に成り立つ区議会の品位と名誉を著しく汚すものである。

よって、千代田区議会は、うさみ正記議員に対し、自ら犯した行為と責任を重く受け止め、区議会議員を辞職するよう勧告するものである。

以上、決議する。

「（仮称）千代田区議会議員政治倫理条例」に関する決議（10/5可決）

区議会議員は、区民の信託を受け区民の代表として、議員活動を通じて区民福祉の向上に努める責務を有している。区民の信頼なくして議員活動は成り立ち得ないのであり、議員は公職にある者としての高い倫理観を持ち、明確な政治倫理基準に基づき、説明責任を果たしつつ誇りをもって活動を行っていくことが必要である。

千代田区議会はこれまで、議会活動条件整備等検討会において、「議員の倫理・活動に関する規程の制定」を検討してきたが、今後、区民の議会への信頼を一層確固たるものにするため、「（仮称）千代田区議会議員政治倫理条例」の制定に向け、今定例会より精力的に取り組むものである。

なお、条例では、議員の政治倫理に関する規律の基本となる事項を定め、その政治倫理の確立を図り、もって区民に信頼される公正で開かれた議員活動の展開に寄与する。

以上、決議する。

国家公務員宿舎の削減に関して関係地方自治体との協議を求める意見書（10/25可決）

政府は、「国家公務員宿舎の削減のあり方についての検討会」を設置し、国家公務員宿舎の削減のあり方に関する具体的な方向性について検討を開始しました。この検討の中で

は、都心3区（千代田区、中央区、港区）の宿舎の削減についても、具体策がまとめられると報じられています。

国においては、国家公務員宿舎の削減は、東日本大震災の復興財源、政府の危機管理体制、制公務員の処遇などが関係する課題であり、十分な議論を経て結論が出されるものと考えます。

このような中、千代田区内には多くの国家公務員宿舎が存在しており、その削減や跡地の活用は本区にさまざまな影響を与えることとなります。宿舎の所在する地方自治体にとつては、宿舎の廃止によって、当該地域から相当数の住民が転出することとなり、保育や学校教育などの行政サービス需要の急激な変化をもたらすだけでなく、宿舎跡地の開発の進め方によつては、まちの姿が大きく変貌する可能性がある重要な問題であります。

よって、国家公務員宿舎の削減のあり方を検討するに際しては、その過程において、宿舎の所在する地方自治体に事前の情報提供を行い、十分に協議することを強く求めます。また、宿舎跡地の処分・活用に関しても、地元自治体の意向を十分に尊重することを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出します。

（送付先）内閣総理大臣・財務大臣あて



和田倉噴水公園

ホームページアドレス <http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>

目比谷公園

陳 情 名	送付委員会
旧庁舎跡地に建設予定の九段坂病院と（仮）高齢者総合サポートセンター合築に関する陳情	（仮称）高齢者総合サポートセンター調査特別委員会
旧麴町保育園跡地に早期に保育所開設を求める陳情	環 境 文 教 委 員 会
「飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発事業」に於ける「歩行者の安全性」を配慮した「歩道整備」の在り方への陳情書	駅及び駅周辺環境整備特別委員会
千代田区立保育園、こども園および小中学校で提供された給食等および牛乳の継続的な放射線量測定実施を求める陳情について	環 境 文 教 委 員 会

の審査などを行っています。

月／日	9 ／ 27	28	29	10 ／ 4	5	6	7	11	12	13	17	18	19	20	21	24	25
議会運営委員会	議会（会期の決定・区長招集あいさつ・議案の議決など）	議会運営委員会	（仮称）高齢者総合サポートセンター調査特別委員会	議会運営委員会	議会（代表質問・一般質問）	企画総務委員会 生活福祉委員会 環境文教委員会	予算・決算特別委員会	予算・決算特別委員会（分科会）	災害対策特別委員会 駅及び駅周辺環境整備特別委員会 （仮称）高齢者総合サポートセンター調査特別委員会	議会運営委員会（未開催）	予算・決算特別委員会（総括）	議会運営委員会	予算・決算特別委員会（総括）	予算・決算特別委員会（総括）	企画総務委員会 生活福祉委員会 環境文教委員会 議会運営委員会	議会運営委員会	本会議（議案の議決など）

平成23年第3回定例区議会会期日程

日 程	
7 ／ 6	(仮称) 高齢者総合サポートセンター調査 特別委員会
14	環境文教委員会
15	(仮称) 高齢者総合サポートセンター調査 特別委員会
20	企画総務委員会
21	(仮称) 高齢者総合サポートセンター調査 特別委員会
24	千代田区平和使節団議員派遣(沖縄) 【うさみ正記議員 7月24日～27日】
25	生活福祉委員会 議会運営委員会
28	環境文教委員会
29	災害対策特別委員会 災害対策特別委員会国内行政調査 【千代田区防災センター】
8 ／ 4	(仮称) 高齢者総合サポートセンター調査 特別委員会
5	千代田区平和使節団議員派遣(広島) 【岩佐りょう子議員 8月5日～7日】
8	千代田区平和使節団議員派遣(長崎) 【永田壮一議員 8月8日～10日】
25	生活福祉委員会 議会運営委員会
29	環境文教委員会
9 ／ 2	企画総務委員会
10	環境文教委員会
12	生活福祉委員会 生活福祉委員会国内行政調査 【協同組合浅草商店連合会】
15	災害対策特別委員会
16	企画総務委員会 環境文教委員会 議会運営委員会
20	生活福祉委員会 生活福祉委員会国内行政調査 【日比谷図書館】 〔平成23年第3回千代田区議会定例会告示日〕
24	環境文教委員会
26	議会運営委員会

7月～9月の主な活動



<http://kugikai.city.chiyoda.tokyo.jp>



があります。)

更に、「区議会メルマガジン」を発行し、定例区議会開会のお知らせや概要など、議会の最新情報をお届けしています。

詳しくは区議会のホームページをご覧ください。

区議会ホームページでは、本会議終了後、「議案の審議結果など」のコーナーには各議員の賛否を一覧表にした議決結果を、「提出した意見書・要望書など」のコーナーには、国などへ提出した意見書や要望書を掲載しています。

また、「区議会日程」のコーナーには、本会議・各常任委員会などの開会予定

定例区議会の速報は
区議会ホームページで！

委員会の記録は、区議会ホームページや区役所7階の区議会事務局でご覧になれます。

◇議案の審議結果など（平成23年第3回定例区議会）◇

可…可決、否…否決、○…賛成、×…反対、欠…欠席、退…退席、除…除斥

議 案 名 等		議 員 名 等					議決結果	1 うさみ 正記 行革ク	2 林 則行 千代田	3 河合 良郎 千代田	4 はやお 恭一 千代田	5 高澤 秀行 千代田	6 安岡 けんじ 千代田	7 永田 壮一 自民	8 内田 直之 自民	9 小林 やすお 自民	10 小林 たかや 声	11 寺沢 文子 民主	12 小枝 すみ子 民主	13 岩佐 りょう子 民主	14 大串 ひろやす 公明	15 山田 ながひで 公明	16 嶋崎 秀彦 自民	17 松本 佳子 自民	18 桜井 ただし 自民	19 飯島 和子 共産	20 木村 正明 共産	21 中村 つねお ネット	22 高山 はじめ 自民	23 戸張 孝次郎 自民	24 鳥海 隆弘 自民	25 石渡 伸幸 自民	議決月日	
委員会 提出議案	国家公務員宿舎の削減に関して関係地方自治体との協議を求める意見書	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長は採決に加わりません	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/25
議員提出 議案	うさみ正記議員に対する辞職勧告決議	24	23	16	7	可	除	○	×	○	×	×	○	○	○		×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9/27
	「(仮称) 千代田区議会議員政治倫理条例」に関する決議	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/5
区長提出案件	千代田区特別区税条例等の一部を改正する条例	25	24	22	2	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	10/25
	千代田区災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/25
	千代田区地区計画の区域内における建築物等の制限に関する条例の一部を改正する条例	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/25
	麴町中学校給食調理備品の購入について	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/25
	災害対策用物資（毛布）の購入について	25	24	24	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10/25	
	平成23年度千代田区一般会計補正予算第3号	25	24	18	6	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	10/25	
	平成22年度千代田区各会計歳入歳出決算の認定について	継 続 審 査																																
報 告	平成22年度千代田区財政健全化判断比率について																															10/5		
	日比谷図書館改修工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		
	日比谷図書館改修給排水・空調設備工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		
	日比谷図書館改修電気設備工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		
	区立九段中等教育学校改修工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		
	区立九段中等教育学校改修給排水・空調設備工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		
	区立九段中等教育学校改修電気設備工事請負契約の一部を専決処分により変更した件について																															10/5		

◆ 千代田区議会議員 条例定数25名 現員数25名

「行革クラブ」

幹事長 うさみ正記

←

「みんなの党」

幹事長 うさみ正記

会派名の変更

10月5日付で、会派名の変更がありましたので、お知らせいたします。

「利用方法」

閲覧には、事前の予約が必要です。希望される方は、電話または区議会ホームページの「資料閲覧受付フォーム」で予約してください。担当からご連絡いたします。

（定例会開会中などは、閲覧のご希望に添えない場合もあります。）

〈閲覧予約先〉

区議会事務局調査係

5211-4297（ダイヤルイン）

「区議会図書室の図書も閲覧できます」

区議会には、議会活動や議員の調査・研究のために、図書室が設置されています。蔵書は、議会や行政に関する図書を中心に収集しており、区議会ホームページから図書の目録を検索することができます。

区民の皆さんのご利用をお待ちしております。

日比谷公園

編集後記

定例会後の区議会だよりにより、区民の皆様にご様子を知らせしております。より分かりやすく、ご要望もしっかり受け止められるような、「だより」にしていきたいと思います。

行楽の秋も終わり、寒い冬がやって来ます。インフルエンザなどにかからないよう気をつけましょう。今年には本当にいろいろな事がありました。来年こそ良い年でありますように。

（安岡）

この時期、毎週末に運動会がありました。母校の校歌・国歌を斉唱するのは気持ちが良いです。子どもたちが国・地域、そして自分に自信と誇りを持てる教育を推進していきます。

（永田）

編集委員会は、環境配慮・コスト削減に貢献できるよう、資料はメール配信され、各委員パソコン持参にて会議は開催されています。小さな一歩ですが大きな前進です。

（内田）

編集委員が全員で写真撮影を担当しました。素人写真ですが、全員が千代田区内を歩き回り撮った結果が今号から掲載されます。トライアルですが、出来上がりはいいが。

（小林た）

区議会だよりに子どもの写真を載せる場合は、より慎重を期すことになりました。子どもの安全を考えれば当然のことですが、便利になった反面、物騒な世の中になったものだとつくづく思います。

（岩佐）

予算・決算特別委員会で、事業予算が適切かつ効率的に執行されたかを調査しました。執行機関は広告費など説明することができず、閉会中も継続して審査することになりました。

（山田）

子どもの写真の「だより」掲載は、より一層安全性に配慮することとなりましたが、改めて子どもの笑顔の持つ力に脱帽です。来年も、子どもの笑顔あふれる千代田区にするために、皆様の声を届けてください。（飯島）

神田一橋中学校の秋